

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会
第9回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成 29 年 1 月 20 日（金） 13:00～14:30

場 所：：ホテルプリムローズ大阪 2階 鳳凰

1. 開会

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。

本日、司会進行役を務めさせていただきます、大阪市都市計画局長の川田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、会場には傍聴の方々を初め、報道関係の方々も多数御来場されておりますけれども、皆様方の御理解をいただいて進めたいと思っております。

まず、協議会の会議及び部会の構成員に変更がございましたので御紹介いたします。

資料 1 の構成員名簿をごらんください。

国土交通省近畿地方整備局局長の山田様にかわりまして、池田局長が御就任されております。本日は、その代理として朝比奈副局長にお越しいただいております。

次に、国土交通省近畿運輸局天谷局長にかわりまして、若林局長が御就任されておられます。

若林局長（国土交通省近畿運輸局）

よろしくお願ひします。

川田都市計画局長（大阪市）

次に、西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長兼執行役員の真鍋様にかわりまして、来島様が御就任されておられます。本日はその代理といたしまして、長谷川代表取締役副社長様にお越しいただいております。

長谷川代表取締役副社長（西日本旅客鉄道株式会社）

よろしくお願いたします。

川田都市計画局長（大阪市）

次に、一般社団法人関西経済同友会代表幹事の村尾様にかわれまして、蔭山様が御就任されておられます。

また、当部会のもとに設置されておりますうめきた2期区域中核機能推進会議において、引き続き検討しておりました内容について後ほど御報告いただくために、座長の大阪大学理事・副学長の八木先生にお越しいただいております。

本日御出席いただいております皆様の御紹介は、配席図をもってかえさせていただきますと思います。

なお、橋爪先生につきましては、おくれて御到着される予定でございます。

それでは、議事に先立ちまして、本部会部会長であります吉村市長より一言御挨拶いただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。

吉村大阪市長

皆さんこんにちは。市長の吉村でございます。きょうは、本当に皆さんお忙しい中お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

このうめきた部会、平成24年に始まりまして、今まで、これまで皆さんにさまざまな議論をいただいております。昨年の4月の部会では大きな方向性ということで、このうめきた2期についてはイノベーションの拠点として、この中核機能のあり方、これについてライフデザイン・イノベーションを中心にして進めていくということの方向づけが決まりました。

このライフデザイン・イノベーションというのを、さまざまなIOTやAIやビッグデータをさまざま活用して、これまでの医療とか医薬という、大阪、関西の強いところ、これはもちろんのことですけれども、それにかかわらず、人々が健康で豊かに暮らしていく。そういったところの産業、新たなサービスということを生み出していく。まさに、そういったイノベーションを生み出すことが中核機能とするということの方向性が定まりました。あわせて、この都心の中心部に圧倒的な「みどり」を、このうめきたにつくっていくということも定まったところでもあります。

大阪、それから関西の将来の方向性を左右すると言っても過言じゃないぐらい、このう

めきたの将来というのは非常に重要な、そして、この会議は重要な会議だというふうに認識しています。

きょうの部会では、このライフデザイン・イノベーションの概念について、じゃあ具体的にどうやって実行していくのと。具体的にどうやって、それを進めていくのというところを、ぜひ詰めていきたいと思っていますし、最終的に取りまとめていって、最終の方向性を定めていきたいと、スピード感を持って定めていきたいと思っています。

今、大阪、関西ではさまざまな成長の芽というのが、徐々に種から芽になり、そして、大きな木になりつつあるという事業がたくさんあるというふうに思っています。うめきたしかり、中之島もしかり、夢洲。この夢洲については万博と、I Rを誘致したいということで進めていっています。天王寺もそうですし、難波周辺もそう。関西空港もそうですし。まさに、この大阪が日本を引っ張るもう一つの力になるということを、ぜひ進めていきたいと思っていますし、その中核機能を果たすのがこのうめきただと私は思っています。

そういった意味で、非常に今回のこの会議を有意義なものにして、じっくりとこれまで議論を重ねてきましたが、同時にスピード感も持って進めていきたいと思しますので、皆さんの忌憚のない意見をよろしくお願いします。

どうぞ皆さん、この会議の中で、この新たな方向性を定めていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

それでは、議事にいかせていただきます。

本日の議題は、前回、関経連の森会長を初め、いろんな方から中核機能の深掘りをもう少ししましようというお話がありましたのと、内閣府の伊藤次長、小林先生からも「みどり」の実現に関して、少し事業者の負担を軽くする、いいものにしていくために、もう少し検討したらどうかというお話もありましたので、中核機能の実現ということと「みどり」の実現に向けてお話を、きょうは議題としてやりたいと思っております。

その後、都市計画の変更であつたり基盤整備が進んでおりますので、その進捗状況を、暫定利用の取り組みについて御報告いたします。

それでは、事務局のほうから説明させます。

2. 議題

- ・うめきた2期区域 中核機能について
- ・うめきた2期区域 「みどり」の実現に向けて

3. 報告

- ・うめきた2期区域 都市計画の変更について
- ・うめきた2期区域 基盤整備事業の進捗状況と暫定利用等について

合田うめきた整備担当部長（大阪市）

それでは、配付資料の確認と資料の説明を進めさせていただきますが、本日は33名の方が傍聴に来られておられまして、定員の10名を上回ってはおりますけれども、傍聴要領に基づきまして部会長の了承を得て、全員の傍聴を認めるということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

～資料確認（省略）～

山口うめきた企画担当部長（大阪市）

それでは、うめきた2期区域中核機能の実現に向けてということで、資料Ⅱに沿いまして御説明を申し上げます。

～資料説明（省略）～

この中核機能推進会議の座長でいらっしゃいます八木先生から、続いてコメントをいただきたいと思えます。

八木理事・副学長（大阪大学）

八木でございます。本日は、どうもありがとうございます。

ちょうど今、説明にございましたが、11月に中核機能推進会議懇話会というのを開催させてもらいました。その場には、文部科学省、また経産省、ファンディングエージェンシーであるJST、NEDO等からも参加いただきまして、うめきた2期の新産業創出機能の実現に向けての意見交換ができた次第でございます。これを踏まえまして、本日の資

料にまとめさせてもらった次第です。

先ほどもございましたが、うめきた2期のテーマとしては「ライフデザイン・イノベーション」というのをキーワードとして挙げております。ライフデザイン、やはりこの大阪のうめきたという地は、何百万人という人が毎日このまちを訪れる、人というのが非常に主役の場所でございます。大阪で暮らす市民が健康で豊かに生きるための新しい商品やサービスというものを創出するための場というものとして、このうめきたの地がうまくいければいいなという考えのもとに、市民を巻き込んだ上でのイノベーション活動を行える仕組みが肝だろうというぐあいに思っている次第でございます。

お越しいただきました経産省・文科省を含めまして、国の皆様方からもうめきた2期に、こういった市民がたくさんやって来る場でイノベーション創出に市民が参画できる、そういった仕組みというのはほかにないものであり、世界中からこのフィールドを求めて世界の方々が集まって来るだろうというぐあいに期待をいただいております。

今後は、速やかに地域の取り組みとしてイノベーション創出に係る活動を開始し、さまざまなプロジェクトの形成や実証実験の支援などを通じて、うめきたが関西の研究開発拠点をつなぐハブとなっていくように期待している次第でございます。

以上でございます。

合田うめきた整備担当部長（大阪市）

ありがとうございました。

それでは、続きまして事務局のほうから資料説明を続けさせていただきたいと思っております。

～資料説明（省略）～

以上で、資料の説明を終わらせていただきます。

川田都市計画局長（大阪市）

ちょっと説明が一括で、長くなって申しわけございません。これから議論を始めたいと思っております。

前回、中核機能に関して森会長からもお話しいただきましたように、まず、関経連の森会長からコメントをいただければ幸いです。

森会長（関西経済連合会）

ありがとうございます。関西経済連合会の森でございます。先ほど、うめきたの2期開発の現状について詳しく御報告いただきました。順調に進んでいるというのが非常によくわかりました。関係する皆様が、本当に精力的な活動を進めていただいておりますことに、厚くお礼申し上げたいと思います。

本日、私からは2点お願いをさせていただきます。

1点目は、中核機能における総合コーディネート機関についてです。関経連は、総合コーディネート機関に先駆けて推進協議会を設立することに賛同いたします。うめきた2期の最大の目玉は、抜群の立地条件を生かしたイノベーション機能を持たせることだというふうに考えております。関経連も推進協議会に参加させていただきまして、できる限りの貢献をしたいというふうに思っております。

また、先ほども御紹介がりましたが、懇話会に参加いただいたJSTさん、それからNEDOさんも引き続き、参画していただけたらというふうに思っております。その上で、総合コーディネート機関をどのようなメンバーで構成するのか、あるいは、どのような役割を持たせるのかといったことは、極めて重要であると考えております。1期のナレッジキャピタルは民間主体で活動していますが、2013年のまちびらきから、これまで非常にうまくいっておるといふふうに思いますが、ここに官や学との連携という要素がより強い形で加われば、その活動はさらに充実したものになるという思いも一方では持っております。

したがいまして、2期の総合コーディネート機関は産官学連携という点を1期よりさらに強く意識していただいて、将来にわたって産官学の連携が担保される形が望ましいというふうに思っております。民間事業者の二次募集に当たりましては、こうした点を考慮していただいて、産官学それぞれのメンバーや役割といったことについても、あらかじめ募集要項の中で明確に示していただけたらというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

2点目は、二次募集の審査についてであります。うめきた2期につきましては、これまで関係者が議論を重ねまして、非常にいいまちのイメージが皆さんの中で共有されているというふうに思いますので、まずはそのイメージをしっかりと要項に落とし込んでいただいて、その上でこういう要項に沿った形での審査をしていただけたらというふうに思っ

おります。審査の際にはさまざまな要素があると思いますが、関経連といたしましては、これまで議論を重ねてきた、まちのイメージを具現化するというところに審査の軸足を置いていただきたいというふうに考えております。

通常、こうしたケースでは、価格面が非常に大きなウエートを占めるものと思いますが、うめきた2期が関西の将来にとって極めて重要な地域であるということを考えれば、今回は、まちづくりの内容を最優先にすべきだというふうに考えております。二次募集の審査は、ぜひ、そうした方向で進めていただくようお願いいたします。

最後に、中之島4丁目の開発について一言申し上げます。現在、中之島4丁目ではアゴラ構想と再生医療の国際拠点化構想の2つの検討が始まっております。これらの構想が実現すれば、近接するうめきたとあわせて、大阪中心部の景色ががらりと一変することになります。当然、うめきた2期のまちづくりは、中之島4丁目との連携を意識して進めていくことになると思われますが、中之島4丁目の開発に弾みをつけるという点でも、うめきた2期の開発は重要だというふうに考えております。皆様には、こうした大阪都心の全体戦略も意識しながら、これからのスケジュールを進めていただくことも、先ほど申し上げました2点とあわせてお願いしたいと思っております。

私からは以上です。本日は、どうぞよろしくようお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

森会長から、推進協議会の賛同と関経連からぜひ、できる限りの貢献をしたいという力強い発言をいただきまして、ありがとうございます。JST、NEDOについても、ぜひ参加していただけるように、我々も力をあわせて頑張っていきたいと思っております。

それから、審査の中で企画を最優先するというんですか。それは、私どもも非常にそういうものが大事だと思っておりますので、コンペ主催者になるUR都市機構さんとも、方法もいろいろ議論させていただいて進めていきたいなと思っております。

今、中核機能とか中之島の件にも会長が触れられましたので、ちょっともしあれでしたら、市長、一言コメントいただけたらありがたいのですけれども。

吉村大阪市長

うめきたについて、その将来機能、あるいは、そのコンセプトをより重視してほしいと

というのは、まさにそのとおりだと思います。これはURさんともしっかりと協議して進めさせていただきたいと思うんですけども、この新たな価値を生み出す、高い価値を生み出す、そんな特別な意味合いにしていきたいと思っています。

今回、総合コーディネート機関が最終的にまちびらきにおいて設置されるんですが、それに当たって、やはり議論を積み重ねてきましたけれど、やっぱり実行部隊というのをしっかりつくって総合コーディネート機関につなげていくということが大事だと思っていますから、その実行部隊としての推進協議会という位置づけをして、もう具体化していったほしいなというふうに思います。その実行部隊の中に、そのコンペで決定した民間事業者にも入ってもらって、より具体的なものを設定するというのをぜひやっていきたいと思っています。

それから、中之島の点、御指摘ありましたけれど、まさにそのとおりです。中之島の4丁目は、再生医療の国際拠点にしたいと思っています。これは、もう知事とも話もしていますけれど、ぜひ、そういったものにしてきたいと思っています。再生医療は日本において非常に進んでいますけれども、産業化、実用化、それから臨床、まさにそういったことを中心とした国際拠点にしていきたいと思っています。うめきたとも、やはりこれは関連していきますので、そことの関係性も重要になってくるだろうと思います。

鉄道で見ても、これは将来的には、なにわ筋線で確実にうめきたと中之島はつながりますので、そこから難波と関空もつながります。そして、新大阪もつながるといって、そういったエリアになりますので、このうめきたと中之島との関係というのも非常に重要になってこようかと思っています。中之島の再生医療の国際拠点としては、今年2月中には大きな方向性について検討をして、取りまとめていきたいと思っていますので、その中でも整理していきたいと思っています。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。中之島の再生医療は、2月に方向性を取りまとめるという市長のお話がありました。我々も動かしてやりたいと思っていますし、会長が御指摘のあった、うめきたはライフデザイン・イノベーションという広いコンセプトなんですけれど、中之島との関係性というのは非常にあると思いますので、中之島の会議の中でもそういう議論をさせていただいて整理もしていきたいと思っていますし、一方、関経連のほうでも都心戦略というのを御検討と聞いておりますので、その都市戦略の中でこのうめきたという

ものをどう見つめるかというのも十分これから、この議論も大分煮詰まってきたともお聞きしておりますので、我々も少し意見交換をさせていただきながら、できるだけうめきたの役割というのをわかりやすく発信できるように調整していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは、次に大商の児玉さん。コメントをいただけたら。

児玉常務理事・事務局長（大阪商工会議所）

大阪商工会議所の児玉でございます。代理出席ですが、簡単にコメントをさせていただきます。

初めに、うめきた2期区域中核機能を御検討いただきました八木先生を初め、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

さて、報告にございましたうめきた2期区域の中核機能である、関西の新技术を首都につなぐ、つまり、関西が有する技術を橋渡しし、事業化のスピードアップを実現するためにイノベーションプラットフォームを構築し、総合コーディネート機関を設置するということですが、これは非常に重要かつ必須のものであると思っております。また、まちびらきを待たず、来年度より総合コーディネート機関の前身とも言える「みどり」と「イノベーション」の融合拠点形成推進協議会を設立し取り組みを開始することは、大阪商工会議所としても賛同するところでございます。

来年度、できるだけ速やかに協議会を立ち上げて、イノベーション創出につながる事例づくりを初め、国内外へのプロモーション等の具体的な事業を実施していくことが肝要であると存じます。

大商では、長年にわたりライフサイエンス分野等において、産学官や産産連携のプラットフォームによるイノベーション創出や事業化を支援してまいりました。こうした大商の活動を協議会においても御活用いただければと考えております。

最後に、二次募集の審査についてでございます。先ほど関経連の森会長もおっしゃいましたことですが、価格面よりもライフデザイン・イノベーションを実現し得る緻密で志の高い民間事業者からの提案を採用できるような審査方法を、ぜひともお願いしたいと存じます。また、地区内の半分以上を占める公園等「みどり」の部分の有効活用についても、さきに事務局から御説明がありましたが、公園の規制緩和等を弾力的に受け入れるような考え方をとっていただきますと、民間事業者から斬新な提案がなされることに

つながるものと存じます。

以上、よろしく願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。大商さんもDSANJのように、非常に医療に関する産学官のプラットフォームをつくっておられて、それを活用いただきたいというお話がありましたので、できるだけそういうネットワークのノウハウなんかも、この推進協議会という実行部隊の中で活用させていただけるとありがたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

それから、次に、関西経済同友会の蔭山代表幹事、よろしく願いします。

蔭山代表幹事（関西経済同友会）

同友会の蔭山です。非常にうめきた2期中核機能について、よく議論をされているなど、時間をかけてしっかり議論をされたということを非常に、きょう御説明を聞きまして感じました。ただ、ちょっと誤解を恐れずに言うと、物すごく嫌なことを言いますと、床をキープして支援機関を置いて、コーディネーターを置いたら皆さん寄って来てくれますかという気がします。そういう意味で言いますと、ちょっと2点ほどお願いをしておきたいなと思います。

1つは、うめきた1期のグランフロントです。これ、先ほど森会長からもありましたけれども、13年にできて非常ににぎわっていると思いますし、ベンチャー企業もたくさん集積はしてきております。ただ、それが当時思っていたほどの成果につながっているかということの御検証をいただきたいと。ですから、うまくいっている部分とうまくいっていない部分、想定よりもうまいこといっていない部分がどれで、うまくいっている部分がどれだということをしかりと明快にして、2期にも生かしていただけたらどうかなというふうに思います。

それと、これも先ほど森会長から御指摘ありましたけれども、この推進協議会ですね。ここが物すごく大事だと思います。ここでかなりのスタートアップまでに実績のようなものがあって、これをそのまま、うめきた2期のプラットフォームに移していくという形になれば、自然と皆さん、先ほど嫌なことを言いましたけれども、寄って来ると思います。ただ、逆に言いますと、この推進協議会がうまいこと機能しなければ、先ほど言いまし

たように、せっかくそういうプラットフォームをつくっても、なかなかそこに人を集めるというのが難しいんじゃないかなということで、次年度からスタートさせられるこの協議会を、これのPRであったりとか、これも先ほど言いましたグランフロントのベンチャーの人たちと何か協働ができないかとかいうような話で進めていただけたらなど。

といたしますのも、同友会は今、ちょっとメンタープログラムという形で直接、実はミドルステージのベンチャー企業の人たちといろいろ話をしています。彼らは、こういうような形でイノベーションにかかわる推進協議会ができるというような話を余り知らないみたいです。ですから、そういう場がきっちりと、これからあるんだということも含めて、ぜひとも1期のグランフロントに集まってきているベンチャーの人たちと、そういうものの具体的な実証の場として、例えば、この協議会でプログラムとして何か取り上げてもらえると、こういうような循環の仕組みをつくっていただけたらというふうに思います。

それと、「みどり」についてですけれども、これも同友会として非常に過去から必要性について具申させていただきまして、今回の先ほどの説明で、かなり我々の提言について聞いていただいたというふうに理解しております。この点は、非常にうれしく思います。ところが、説明の中でも出てきていましたけれども、「みどり」の維持コストってすごく高いんですね。先ほど、多分事業コンペのときに森会長が、やっぱり都市機能というのを重点的にしてあまり採算みたいな形でやらさないようにというお話がありましたけれども、私もそう思っています。これ多分、事業者のコンペですから、やっぱりしわ寄せがいくとしたら、やっぱり「みどり」じゃないのかなということ非常に心配しています。こういうことが、これだけ「みどり」について質の高いとか人々の心が潤うとか、こういう形で緑の質についても極めて深く議論していただいているというふうに認識しておりますので、ぜひともコンペのときに、この「みどり」にしわ寄せがいかないように、しっかりとフォローアップをお願いしたいと思います。

以上2点、お願いしておきます。

川田都市計画局長（大阪市）

大変ありがとうございます。中核機能に関しては、本当に縁取ったようにプラットフォームをつくっても、企業はそんな簡単に集まらないということがあるので、先ほど八木先生のほうからもありましたし事務方からもありましたけれど、関経連さんも国のプロジェクトの費用を取りに行きながら、健康データを活用した新たなサービスの事業であるとか、

大阪商工会議所さんもスポーツの関連でプロジェクトをやろうという、ちょっと具体的なやつを必ず来年度立ち上げて、これからこういうプロジェクトが進んでいくと、どういう企業の方が非常に関係してくるかというのがわかるように、PRの仕方も非常に大事で、我々役人は下手なので、その辺はいろいろ民間の方のノウハウも活用させていただきなながらアピールもしていきたいと思っておりますし、先ほど、メンタープログラムも非常にうまくいっているというのをお聞きしましたし、そういう中堅のベンチャーの方にも我々、できるだけアピールしていきたいと思っております。

「みどり」に関しては全くおっしゃるとおりですので、既に対話を何度も民間事業者さんともやらせていただいておりますので、その中でいろんな規制緩和に関する要望なんかもお聞きしておりますので、できるだけそういうものが実現できるようにやることで、持続可能な運営ができるように努力していきたいと思っております。

それでは、経済界からの御意見をお伺いしましたので、きょうは東京の内閣府のほうから来ていただいております頼次長から、総括的なコメントをいただけるとありがたいと思います。

頼審議官（内閣府地方創生推進事務局）

内閣府の地方創生推進事務局のほうから、佐々木事務局長の代理で出席させていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、大きく2つお願いをさせていただければと思います。あと、これまで関係者には御検討を進めていただいて、どうもありがとうございます。

いろいろお話を伺いながら、やはり一番国として考えていること、まず一番大切なのは、やっぱりいいまちづくりをするということかと思えます。このためには、やっぱりじっくり丁寧に積み上げていっていただければと思うんですけども、国としては、まさにじっくりやっていたらいいように、例えばURさんの土地所有のリスクが少しでもないということ措置をさせていただいているという経緯もございますので、ぜひ、この協議会の枠組みの中でやられるんだと思えますけれども、いい公募ができて、いいまちづくりができるように、関係者の皆様の間で丁寧に積み上げて進めていっていただければと思いますので、まず、それを一つお願いできればと思っております。

もう一つは、先ほど市長のほうから中之島の再生医療のお話もございました。当然、うめきたのライフデザイン・イノベーションとの連携ですとか役割分担、相乗効果というこ

とも、もちろん大事なことだと思います。けれども、それこそ市長がおっしゃられたみたいに、そもそも、うめきたは大阪の宝でもありますし、関西の宝でもありますし、日本全体の宝にもなるような場所だと思っております。

ですから、例えば私ども都市再生の立場から言いますと、例えば神戸のポーアイでは医療産業都市ということで、やはり再生医療もやられて取り組まれておられたり、再生医療というと京都であったりとか、大阪府さんのほうでは吹田ですとか、彩都のほうでまたいろいろやられていたりとか、いろんなことが関西でも進められているんだと承知しております。

ですから、もちろん連携するというのは言葉では簡単なのですが、関西の中で再生医療が盛り上がっていくというか、基礎研究から実際に使われていけるようになるまでという、本当にその経緯全体のプロセス、全体の中で、例えばどこがこういう役割を担って、お互いにこういう相乗効果が生まれるといったような、関西全体での絵姿をぜひ描いていただいて、皆さんで共有していただいて進めていっていただければ、関西全体として盛り上がるんじゃないかと思っております。

私も個人的にはこちらの出身ですので、ぜひ、そんな形で関西が一体となって頑張っていっていただければと思いますので、ぜひ、そういった全体の相乗効果を、それぞれのところがウィン・ウィンでやっていけるような絵姿を描いて進めていっていただければなど思っておりますので、この2点お願いさせていただきます。

よろしくお願いたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。まちづくりについては、今、これまでの議論も踏まえて、民間開発がよりよいような形で進められるように、我々としても調整していきたいと思っております。

それから、京阪神というのか、関西全体との連携ということで申し上げますと、確かに頼次長がおっしゃるとおり描くのは、連携と言うのは非常に簡単なのですが、やるのはなかなか難しいというのか、プロジェクトによっていろんな連携の仕方が変わってくるのかなと思っております。特に今、資料にもありましたのですが、先ほどの関経連さんの新たなプロジェクトであるとか、理化学研究所の健康生き活き羅針盤リサーチコンプレックスというのを既に、もう採択をいただいている部分に関して我々と連携してや

っていくということも、ヘッドの方とお話させていただいておりますので、そういう具体的なプロジェクトをキーにして関西のつながりというのも考えていきたいと思っていますし、育てていきたいと思っています。

それと、中之島についても、もちろん再生臨床の医療拠点ということになりますので、うめきたと直接、医療面という面ではかかわらないんですけども、そういう再生医療に関しても、いろいろな拠点との連携というのも大事になってくると思いますので、そういった取り組みを通じて大阪の都心部と関西の各拠点の連携も図っていければなと思っています。

それでは、ちょっと今、内閣府の頼さんからお話ありましたように全体、ちょっとUR都市機構の西村支社長。先ほど、森会長、蔭山代表幹事からのお話も含めて、少しコメントをいただくとありがたいと思います。

西村理事・西日本支社長（都市再生機構）

UR都市機構でございます。私ども、地区の区画整理との基盤整備と、それから用地の取得保有、そして、民間開発事業者の誘導というところを担当させていただいております。

今後、民間開発事業者の募集や公募に向けての条件整理ということになってくるわけでございますけれども、本日の御報告、御意見に関して2点触れさせていただきたいというふうに思います。

1点目は、基盤整備の状況でございますけれども、進捗状況は先ほど御報告があったとおりですけれども、今後、JRさんの地下化工事等と整合をとりながら基盤整備のほうを順次進めてまいりまして、最も早い部分で敷地ができ上がってまいりますのは3年数カ月後となる予定でございます。以降、段階的に敷地ができ上がっていくということを予定しておりますので、こういった状況も踏まえまして、よりよい民間開発が誘導できるよう進めてまいりたいというふうに考えてございます。

それから、2点目は中核機能に関してでございますけれども、本日の御報告では目指すべき施設や活動のイメージの具体性が固まってきたものというふうに考えてございますが、先ほど来の御意見等ございましたように、大阪都心部全体の動きを踏まえた議論が重要であるということでございますので、中之島の機能でございますとか、あるいは、中之島側から見たうめきたの中核機能に対する期待と役割といったものについての御検討を関係者のほうで進めていただきまして、その結果も受けとめて、さまざまな条件整理を進めて

いきたいというふうに考えてございます。

あと、最後に、審査方法についての御意見を何点か頂戴いたしました。貴重な御意見として承って、今後、大阪市さんとも十分に調整をしながら検討をしていきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。今、西村支社長からのお話、中之島とうめきたの話とか、いろんな関係も、実務的にもいろいろ整理はしていきたいと思っております。

ちょっと突然で知事に振るのもあれなんですけれど、中之島の関係もありますし、うめきたの会議もこの会議ですし、彩都とかいろんな大阪府さんも拠点も持っておられますので、そういう少し広域的な立場から、このうめきたというもののありようについてコメントを。もちろん、そのほかも含めてコメントをいただければありがたいと思います。

松井大阪府知事

皆さんのおかげで、うめきたについても大分具体的な姿が、少しずつ見えてきたのかなと思っております。今、頼さんからお話があって、関西全体で連携していくのは当たり前の話なんですけれど、大阪府と大阪市の連携もここ5年ぐらいに進んできたばかりで、なかなか全部進めようと思うと非常に難しい。

再生医療センターについても、もう吉村市長といろいろ話をしまして、これは研究施設なので、すぐに収益の上がるというようなものではありません。だから、吉村市長も4丁目は売らない、売却はしないとはっきり言っていますので、長期の定借で、そして単価はぐっと抑える中で再生医療を、研究の成果を出せる形をつくっていききたいと思うし、これ研究ですから、やっぱり国からの支援が必要です。今、金額は言いませんけれど、ぜひ10カ年、20カ年計画ぐらいの支援をよろしく願いしたいと。これも再生医療センターを運営しようとしている、そういう研究者の皆さんもそういう声が出ていますので、それをぜひ、個別具体的にはまたお願いに行きたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それと、「みどり」については、圧倒的な「みどり」ということで、もう大々的にぶち上げたわけですし、これは大阪府も大阪市も今、最初の初期投資というところで財源も確

保しますけれども、民間の皆さんにもお願いをしたいということで基金を設置していますから、ぜひ、そちらのほうへの御協力もよろしくお願いをいたします。

東京一極じゃなく、大阪の存在感というのが少し、少しですけれど出てきたかなと。それを圧倒的なものにするためには、やっぱり中心部の核が重要で、この核になるのがうめきただと思っておりますし、大阪の産業の新たな柱に健康、医療というものをこの柱として立ち上げたい、立ち上げていくべきだと思っております。

もう一つは、エンターテインメントという柱が少し基礎はできてきたかなと。そのエンターテインメントのそういう形が見えてくる中で、外国からのお客さんも非常に圧倒的に伸びていると。その伸びている外国からのお客さんに対しての一つのおもてなしとしても、やっぱり健康や医療というのは非常に重要になるかなと思っておりますので、オール大阪、オール関西でこれを必ず成功させたいと思っております。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。力強いお話をいただいて、大変感謝しております。

それでは、近畿運輸局の若林局長。ちょっとこの全般を聞かれて、インバウンドというキーワードも出ましたし、観光という側面だけではなくて鉄道とか、いろいろ御支援を賜ることがたくさんあると思っておりますので、よろしく申し上げます。

若林局長（国土交通省近畿運輸局）

御紹介にあずかりました、関西で交通と観光のお手伝いをさせていただいております、運輸局の若林でございます。うめきたのまちづくり、これは本当にもう関西全体、日本を牽引するプロジェクトであろうかと思っております。こういう場にお仲間に入れていただきまして、本当に感謝しておる次第でございます。

先ほど、知事からのお話もございました。やはり、このうめきたのポテンシャルを最大に発揮するための追い風が今吹いておって、海外からのお客様、インバウンドさんも日本全国で2,400万人を突破しました、昨年。これは22%増なんですけれど、実は大阪のほうは、きのう大阪の観光局さんから発表ありましたけれども、940万人で対前年比31%増と。この全国平均をはるかに上回っておると。こんな状況になっております。

このうめきたでございますが、もうおっしゃるとおり紛れもなく関西の知識と人の流れの、まさに中心になっていくわけでありまして。交通関係で言いましても、バスやターミナ

ル機能の強化ももちろんでございますけれども、やはりこのうめきたが関西の中心になっていくためにも、将来、リニアや北陸新幹線がまいて拠点性を増すところの新大阪であるとか、もちろん関空や伊丹、それから神戸といった空港であるとか、先ほど市長さんのお話がありましたけれど夢洲、これからの発展にポテンシャルの高い夢洲などのバイエリアへの直接的なアクセス、直結性の強化というものが本当に必要ではなかろうかと思っております。

もちろん万博につきましても、今、本当に皆さん、大阪府さん、大阪市さんのほうを挙げて走っていただいております。私ども国のほうも、この春の閣議了解に向けて府の基本構想の案の検証などをさせていただくとともに、これから国も前のめりで進めていかせていただきたいと思っております。この万博につきましても、本当これは、まさに一過性のイベントじゃございませんものです。やはり今後、その万博を産業界の皆様の御協力と御理解とともに進めていくためにも、やはり今後の開業を予定させておる夢洲の、これはIRの有力な候補地でもあろうかと思っておりますけれども、こういったバイエリアのやはりまちづくり。そこへのまたアクセスなどにつきましても、具体的な形でできるだけ示していただくことが大切になってくるのではないかと思っております。

私は、済みません、大阪ではないんですけれど、神戸で生まれまして関西人でございます。これは地元民としてもしっかりと気張っていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。非常に広範囲なお話をいただきまして、ありがとうございます。

今、少し万博とかIRとか新幹線、リニアの話、いろいろ出たので、もし知事か市長、コメントをいただければありがたいのですけれども。よろしいですか。

吉村大阪市長

万博とかIRも含めてなんですけれど、このうめきた2期のまちづくりというのは、当然、大阪だけじゃなくて関西の、まさに将来を左右するぐらいの大きな事業だというふうに思っています。

大阪、関西が日本に貢献したいと。日本の成長にも貢献したいと思っておりますし、関東

だけじゃない、この関西が一つの軸になるというのをやっていきたいと思っています。そのためには、やっぱり僕はスピード感というものがものすごい大事だと思っています。

今回、一定のこの募集に向けた方向性は定まってきましたが、この開発事業者の募集をして、そして決定をして、実行をしていくという、ここの作業は非常に重要だと思っ
ていまして、頼審議官、それから、URもきょうお越しいただいていますけれども、先ほどコメントがありましたが、僕はぜひ、当然じっくり意思形成をしていくことも大事なんですけれども、この日本の成長というのは待たないだと思っていますので、スピード感を持ってやっていきたいと思っ
ていますので、ぜひ、御協力をよろしくお願ひしたいなというふうに思います。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

そうしたら、近畿地方整備局の朝比奈副局長。お願いします。

朝比奈副局長（国土交通省近畿地方整備局）

近畿地方整備局の副局長の朝比奈でございます。私どものところはインフラ整備、まちづくり、公園といったことで、地域の活性化をお手伝いさせていただいていること
でございます。

うめきたの整備につきましては、前回4月のときにも申し上げましたけれども、昨年3月に関経連の森会長さんにおまともいただきました関西広域地方計画の中でも、関西成長エンジンプロジェクト、あるいは、同時期にできました近畿ブロックにおける社会資本重点整備計画の中でも、国際競争力を強化し輝く近畿となるための社会資本整備の重点施策に位置づけておりました。その重点施策につけたら何かしなければいけないわけ
でございます。昨年10月に成立しました28年度の二次補正予算におきましても、重点的に予算配分を、32億ほどだったと思いますが、配分をさせていただいたところ
でございます。

きょう前半で、この「みどり」の実現という部分につきまして、民間事業者の柔軟な発想やすぐれたアイデアを生かすんだよというふうな方向の御説明がございました。これに関しましても、ただいま、ちょうど国土交通省におきましては、都市公園の魅力を向上し、そのストック効果を高めるために、民間事業者の資金やノウハウを公園整備に積極的に活用するための3つの新たな制度を今考えてお
りまして、パークPFI、P-PFIと言う

のでしょうか。パーク P I F と言っておりますが、例えば民間提案による収益還元型の公園施設の事業運営制度であるとか、それから、民間事業者が行う公共の部分の整備を、いわゆる社会資本整備の交付金で支援する。さらには、都市開発資金による民間事業者の貸付制度といった、こういったことを今、これから国会で御審議いただきます29年度の予算の中で新たな制度として御提案を申し上げているところでございます。

それから、これらをさらに制度面で担保しますために、都市緑地法等の一部を改正する法律案というのも今準備中でございます。都市公園法、あるいは、その都市緑地法といった関係法律で、例えば今申し上げました公益公共還元型の収益施設の設置管理制度といったものを、法制度として一般措置化するというふうなことでございます。特区であるとか、あるいは大阪ですともう、てんしばで事実上動いているようなこともあったと思いますが、それを制度としてお支えするというふうなことを、おいおい国会に御提出申し上げるといふふうな準備を本省でしております。

いずれにしても、これらの制度ができますれば、今お考えになっていらっしゃることに、よりやりやすくなればいいなと思っております。

一方で、制度というのは、つくってしまいますと逆にかたくなる部分もあって、動いていくものに沿わない部分が出てくるのかもしれませんが、その辺はうまく御相談しながら、よりよいことができるよう国土交通省として、あるいは、近畿地方整備局としましてもできる限りお手伝いさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。我々もパーク P F I、非常に期待もしておりますし、社会資本整備補助金ですね。そういう事業費が公共補助になったということもありますので、こういう、これからのうめきたの緑化に関して少し勉強させていただいて、民間事業者さんの後ろ盾になれるように制度を活用させていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、学識経験者の方々から御意見をいただきたいと思うのですけれども、安藤先生、済みませんがよろしくお願い致します。

安藤名誉教授（東京大学）

10年というのは、割と早いなど。すごいスピードでやらないかんわけですけども、まちづくりというのは誰のためにあるのかというふうに考えてみますと、今度の博覧会等もそうですけれども、健康、長寿健康というふうになっておりますが、そのためには一つは体の健康、体力等の健康と、知的体力も要りますが、何よりもここで生きていく人間がこのまちに来てよかったという、誇りのあるまちにせないかと。それではないかと。

今、京都と大阪と神戸というのは、まあまあその中心にあるわけですから、大阪としてはやっぱり、ここに生まれてよかったなという。ちょっとの間、中之島を歩いていて思ったんですけども、御堂筋と中之島を歩きながら結構誇りがあって、昭和の初めにできてから相当の時間がたっているんですけども、我々にとっては大変大きな誇りはエネルギーになるわけですが、今回の2期も、1期ができて、この2期のときにやっぱりコンクールの決め方もその誇りを50年、100年持てるようにするような内容にしていきたいと。同時に、なかなかそう言いながら計画のスピードは速いですし、もう一つはアメリカがトランプになって大騒ぎしているように、世界中がこういうふうになっていくであろうときに、変化も早い、スピードも速い、大阪はどうしているのかと。

グリーンっていうのはなかなかいいと思うのですが、そのグリーンはその心の中にしっかり、自分たちの心の中に残りながら、大阪に生まれたからこそ、やっぱりいわゆる環境を考えておるなというような子どもたちが生まれるようなまちにするためにはどうするかということをしっかり踏まえて考えていきますと、これはなかなかコンクールというのとうまく合うのかなと。なかなか難しい問題ではないかと思えますけれども、このあたりをしっかりと、コンセプトをしっかり捉まえながらやっていただきたいなというふうに思います。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。誇りであるとか、大阪に生まれてよかったとか、子どもというキーワードも非常に感じ取りましたし、きょう傍聴で多分、一次コンペに残っておられる方々も聞かれていると思いますので、こういう議論をしっかり受けとめていただきながら御提案していただけるようにやりたいと思います。

次、小林先生、よろしいでしょうか。

小林名誉教授（横浜国立大学）

私からも、2点ほどお話しさせていただきます。時間もあれですので、簡潔にお話しさせていただきます。

1つは、資料Ⅱでございます中核機能の実現に向けてのペーパー、大変よくできていて、内容的に私があればこれ言う部分はないのですが、しかし、内容として含まれているけれど、それをもう少し表に出したほうが良いような要素があると思います。

それは、先ほど八木先生がおっしゃった、市民を巻き込んだイノベーションという話ですね。市民を巻き込んだイノベーションというのは、要するに産業サイドのイノベーションはこれまで日本は進んできたんですが、もう一つ、多様な人材がイノベーションに取り組む、そういう場として、この中核機能を利用するという意味だと思っております。

たまたま私、今、森記念財団というところに属しております、去年、おととしと2年間かけてロンドンサーベイというのをやりました。ロンドンサーベイをなぜやったかという、森記念財団では世界都市ランキングというのを毎年発表しております、2012年にロンドンがニューヨークを抜いて、都市として世界一位の都市にランクアップされたわけですね。なぜだろうかと、ニューヨークをなぜ抜いたのだろうかということ、2年間かけて、ロンドンにも足を運び、いろいろなロンドンの関係者からお話を聞いた。一言で言うと、イノベティブのベースになるクリエイティブという言葉が、そのベースにあると。クリエイティブな人たちがそこに集まってイノベーションを引き起こすという、そういう部分が非常に重要で、恐らく先ほど八木先生がおっしゃった言葉は、それにつながる言葉だと思います。

そんな言葉が入っていないのかと思ってページを繰ってみますと、実はこのペーパーの中に、3枚目の裏ですか。スライドで言うと11と出ているところの、ちょうどイノベーション施設に期待する役割の例ということで5つ並んでいる真ん中が、3Dプリンター等の各種工作機械を利用して、低コストかつ速やかな云々と。そこに集まる異業種人材やクリエイターと共創して、新しいアイデアを。この新しいアイデアがイノベティブに結びついていくと。そういう要素をこの中に、ぜひ、しっかり組み入れましょうということがここに書かれていて、この要素はもっと頭出しできないかなと思っております。

なぜ頭出しできないかというのは、たまたまロンドンサーベイをやったときに、政府のクリエイティブ産業の会議の座長をやっている竹中平蔵さんから、会いたいということで、三十分話したのですけれど。というのは、経済成長戦略の中でクリエイティブ産業の議論がかなり重点的に進めたいと思っていて、竹中さんが座長で進めている。これから日本に

とって、このクリエイティブ産業が極めて重要であると。そのクリエイティブな要素を、
どういうふうに都市の中に組み込んでいくか。

既に、東京では少しずつ動いております、例えばロンドンの都市ランキングを上げた
一つの要因である、クリエイターを生み出す教育機関がロンドン・カレッジ・オブ・アー
ツ。世界で最高の、そういうクリエイティブな才能を生み出す大学院だけの大学が、R C
Aというのがあって、このR C Aが日本に出てきたということで、東大と接点を持ってい
ろいろ議論をやっているところです。そのR C Aの先生方とお話ししてR C Aの話を知
っていると、こう言ったら何ですけれど、東京大学は余りにも個々の先生方が立派過ぎて、
協働して何をやるかというところに若干欠けるんじゃないかという感想を漏らしまして、
むしろ関西で新しいこういう組織があるなら、協働して新しい機能を生み出す、そういう
場として今回の場を使うと。

ですから、日本国内だけでなく海外のそういうところとの接点を持って、新しい要素
をこの中に持ち込む。恐らく大阪大、あるいは、京都大学あたりはもう既にそういう動き
があるのかもしれませんが、そのことが極めて重要で、クリエイティビティという言葉
をぜひ、この中に明示的にお示しいただけないか。クリエイティブ産業という言葉
を明示的にお示しいただけないかということが一つでございます。

それから、もう一点は、先ほどから審査方式のお話が森さんを初め、いろいろございま
した。おっしゃるとおりでございますが、結構、私は今までにない開発を皆さんにしてい
ただくということで、どういう審査をしたらいいのか、どういう視点で物を考えていっ
たらいいのかということについて、スピード感を持って審査するには、あらかじめ相当準備
が必要じゃないかなと思っています。

最近、例えばLEEDというアメリカの評価手法がありまして、これは建築単位の評価
なんです、最近LEED ND、Neighborhood（ネイバフッド）という評
価手法がいろいろ言われておりまして、日本で使えないかということをやられております。
それそのものである必要はないんですけど、こういう公園も含めた「みどり」が入った
新しい大規模開発を評価する仕組みですね。それをある程度、事務局で準備しておかない
と、評価がなかなか行き詰まる可能性がある、心配があるということでございます。

以上、2点でございます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。クリエイティブ人材の位置づけを、もう少し強めるべきであるということをお伺いしました。

それと、非常にしっかりした評価をするために、相当しっかりした議論をします。今、御紹介がありましたLEED ND、Neighborhood（ネイバフッド）に関しては、UR都市機構さんとも少し議論もしております、非常に目線の高い考え方を持っておられますので、そういうことも少し勉強しながら評価というのを考えていきたいなと私は思っております。

西村様、いかがですか。よろしい。

西村理事・西日本支社長（都市再生機構）

はい。

川田都市計画局長（大阪市）

はい、済みません。

それでは、橋爪先生、お願いします。

橋爪教授（大阪府立大学）

橋爪でございます。

うめきた2期を通じて、大阪というまちが健康で、長寿で、アクティブなまちだということをもう一度、我々はアピールすることが大事だろうと思います。長寿に関しては、難波宮から数えると、我々1,400年、時代とともに変わりながら大都市であり続けてきている。こんな都市は世界でも、まあまああまり例がない。京都は1,200年を超えて都市であり続けるということを言っていますが、大阪はさらに長い歴史があります。絶えずイノベーション、まちそのもののあり方を変えながら、絶えずまた若々しいまちになってきたという過去がございます。

私は、今回のうめきた2期及び万博等の開発を通じて、もう一度、我々は元気で健康的でアクティブなまちとはこういうものだということを世界にアピールするチャンスだということを、まず申し上げたい。

2点、「みどり」に関して申し上げたいことがございます。

1点目は、従来コストセンターだと考えられがちであった公園を今回、プロフィットセ

ンターに変える可能性があるのだらうと。今書かれている原案で言いますと、多様な活動、新しい価値、新しい都市景観を生み出す、これは価値を創造する「みどり」だと。これは、もう当初からこんなふうに書かれておりますが、従来はコストばかりかかる公園、「みどり」だったものを、何らかの価値を生み出して稼ぐことができる「みどり」とは何ぞやと。これは、非常に挑戦的な試みであると思います。ぜひ、このコストセンターからプロフィットセンターへというふうな概念が重要であらうと、1点目を申し上げたい。

2点目といたしましては、絶えず研究のほうもそうですが、世界をリードする、あるいは、公園のほうでも「みどり」のほうでも、比類なき魅力というふうな形容詞がついてまいります。これは、絶えず新しい魅力的な研究拠点とか、魅力的な新しい公園施設が世界中各都市で、やっぱり今も競い合っている。昨年も、ロサンゼルスに行きましてグランドパークを見てまいりましたが、やはり世界各都市が成功する公園とか建築拠点を見た上で、またそれをいかに超えるかということで競い合っている。我々は内向きではなくて、絶えず世界の先端を、先を走っている事例を調査研究しながら、それをどのように超えていくのかということで計画をしていかないと、比類なき魅力と言っているものも5年、10年で追いつかれますので、逆にナレッジ、グランフロントの我々の1期がそうであるように、世界中が視察に来るような、世界が憧れて我々がむしろ手本にされ、いかに乗り越えられるかと世界中が注目するような、そういう比類なき魅力のある「みどり」にしてまいりたいと。

ハードルを上げ過ぎた気もいたしますが、ぜひとも世界のトップを我々は走りたいと思います。以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、J R T Tの佐々木様から、ちょっとコメントをいただければと思います。

佐々木国鉄清算事業用地統括役（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

鉄道・運輸機構の佐々木でございます。発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

1点だけ、質問というよりはお願い事であります。いろいろ前段の調整事項もまだこれから、きょうの意見も踏まえてあらうかと思いますが、ぜひ、今回新たに御提案がありま

した、みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会を早期に立ち上げていただきまして、民間開発事業者が円滑に応募できるような募集手続を進め、早期に事業者に提案を求められるよう進めていただければありがたいです。

よろしく願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

推進協議会に関して、できるだけ我々としても早く立ち上げられるように努力したいと思っております。

時間も押してきたんですけれども、今回、基盤整備で区画整理もやっておりますし、鉄道の地下化もやっております。今回、西口の広場のところの下に新しい駅ができます。JR西日本さんが所有の駅になるわけですが、その空間も含めて西口広場というのが一つ、2期のメインエントランスゲートにもなると思いますので、その辺の整備といたしますか、西口広場を地権者としてお持ちになられるJR西日本の長谷川様からコメントをいただけたらと思っております。

長谷川代表取締役副社長（西日本旅客鉄道株式会社）

JR西日本の長谷川でございます。工事の状況につきましては、先ほど局長のほうから駅について丁寧に御説明いただきまして、ありがとうございます。

弊社といたしましては、この支線の地下化工事、それから新駅の設置の工事、2期エリアのまちづくりのための先行誘導プロジェクトという位置づけをもって、取り組みをさせていただいております。35年春の開業ということに向けて、これまで同様、関係機関の皆様方の御支援、御協力を頂戴しながらしっかりと進めていきたいというふうに思っているところでございます。

また、西口広場でございますけれども、まちづくりの方針に位置づけられております2期区域のゲート空間、さらには、この「みどり」というまち全体のコンセプト、その玄関口としてのふさわしい空間形成が必要であるというふうに私どもとしても考えているところでございまして、弊社といたしましても新駅の事業者、地権者といたしまして、よきまちづくりのための一定の役割を果たしていきたいというふうに考えているところでございます。

そのためには、新駅を御利用される方、あるいは、このうめきた2期へお越しになる皆

様方、そういった多様な皆様方のニーズに応え、2期のまちづくりの玄関口にふさわしい空間となるように、地下新駅と一体となりました地上部におけます交通機能の確保、さらには、新たなにぎわいが生まれる設備の整備、そういったことの検討を進め、図っていくということを進めることによりまして、この立体的な2期のまちづくりへの一翼を担っていきたく、かように考えているところでございます。

よろしくお願い申し上げます。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。民間の事業者さんが提案される2期開発と西口広場というのは、非常に密接不可分で一体的で、これは機能的にも一体的で空間的にも一体的な、よりいいものにしたいと思っていますので、これもURさんと一緒に、また諸条件の調整なんかをさせていただけたらありがたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

それでは、郵政の似内部長、角会長、藤原社長、岩田様のほうで、もし何か、きょうの議論についてコメントをいただけることがあればいただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

藤原取締役社長（阪神電気鉄道株式会社）

特にありません。

川田都市計画局長（大阪市）

よろしゅうございますか。

それでは、ほかにきょうの全体を通して、何か御意見がありましたら伺いたいと思いますが。

それでは、最後になりますけれども、市長のほうで一言加えさせていただきたいと思ひます。

吉村大阪市長

きょうは、このうめきた2期のまちづくりを成功させるという、そのために本当に皆さんから貴重な意見をいただきまして、本当にありがとうございます。

今回、この「みどり」のテーマであつたり、あるいは中核機能のテーマについて、一定

の方向性は示せたのかなというふうに思っています。それから、実行組織としての推進協議会、これを立ち上げるということも、ぜひ進めていっていただきたいと思います。

このうめきた2期が、やはりこの大阪、そして関西、僕は単位は関西だと思うんですけども、この中心になって、この日本の成長を引っ張っていくという、その中核拠点にしたいと思っていますので、さまざまな関係者の皆さんの調整は当然、これはおありだと思っています。私もそれは十分承知していますが、一定、やはりこれはスピード感を持ってぜひ進めていっていきたいと思いますので、皆さんの御協力のほどをよろしくお願いしたいと思います。

本日は、皆様ありがとうございます。

川田都市計画局長（大阪市）

どうもありがとうございました。

それでは、これもちまして本日の会議を終了したいと思います。ありがとうございました。